

## 第2回 SACLA 選定委員会 議事概要

### 1. 日時

平成23年9月5日(月) 14:50~16:35

### 2. 場所

東京ステーションコンファレンス 602-A (東京都千代田区丸の内)

### 3. 出席者 (敬称等略)

- 委員 坂田誠(委員長)、雨宮慶幸、太田俊明、諏訪牧子、武田晴夫、  
月原富武、豊島近、元廣友美
- JASRI 白川哲久、熊谷教孝、野田健治、後藤俊治、矢橋牧名、  
大野英雄、鈴木昌世
- オブザーバ (文部科学省量子放射線研究推進室) 小野田敬  
(理化学研究所) 根本光宏、生越満
- 事務局 牧田知子、八木克仁、杉本正吾、坂川琢磨、山下幸二

### 4. 配付資料

- (1) 平成23~24年度 SACLA 選定委員会委員名簿
- (2) 第1回 SACLA 選定委員会議事概要(案)
- (3) 審議事項
  - ① 利用者選定に係る基本的考え方の改正について
  - ② 利用研究課題の募集要項(概要)について
  - ③ 審議事項②の別添 利用研究課題申請様式案
  - ④ 今後のスケジュール

### 5. 議事

- (1) 開会

○JASRI 白川理事長より、

- ・第1回 SACLA 選定委員会の議論を踏まえ、利用者選定に係る基本的な考え方等をまとめて10月には課題公募をしたいと考えているの

で、今回はより具体的な議論をお願いしたいこと

- ・ JASRI は来年 3 月の SACLA 供用開始に向けて具体的な準備作業を進めていきたいこと

等の挨拶があった。

(2) 審議事項 (以下、◇=委員長又は委員、◆=JASRI)

① 利用者選定に係る基本的考え方の改正について

JASRI より説明の後、以下の主な意見があった。

- ◆ 前回の委員会の議論を元に基本的考え方の改正案をまとめたが、その後の検討を経て、選定基準の (2) において案 1 と案 2 を挙げた。改めてご意見をいただきたい。
- ◇ 前回承認した案 1 「SACLA でなければ実施不可能な課題であること」は、SPring-8 の基準と並べてみると誤解を招きかねないことから、SPring-8 と同等の表現である案 2 「研究手段としての SACLA の必要性」でどうか、ということか。
- ◇ 案 2 でいいと思う。間口を広げて SACLA 利用を申請する者に必要以上のプレッシャーを感じさせないようにし、その中から優れた課題を選ぶのが良いと思う。
- ◇ 5 ページ目の「重点戦略課題は、当面、国の方針等を踏まえつつ」の“当面”は、どのくらいの期間を指すのか、明確ではないと思う。消しても意味は変わらないし、基準としてはっきりする。今後、研究進捗状況等をみながら議論すればいい。
- ◇ 確かに、基本的な考え方に「当面」とあるのは少し違和感が感じられるかもしれない。本委員会の意見としては、これは取るということにする。
- ◇ 基本的考え方の英語版も作成されると思うが、本委員会で議論するのか。
- ◆ そこまでは考えていない。委員へはメールでお知らせする。
- ◆ 意図を的確に英訳できる人材が JASRI 内におり、蓄積もある。JASRI で十分に対応可能。
- ◇ 「基本的考え方」の SPring-8 の方には、「2. 一般利用研究課題」に

において一般課題の公募の仕方が示され、「3. 重点研究課題」において重点課題の公募の仕方が示されている。

一方、SACLAの方は、「1. 利用機会の配分」において一般課題と重点戦略課題があると説明され、「2. 利用研究課題」において利用研究課題の公募の仕方が示され、「3. 重点戦略課題」において重点戦略課題の公募の仕方が述べられている。これだと、一般課題の公募の仕方はどうなのかという疑問が残る。

- ◆ 1. において、利用研究課題には一般課題と重点戦略課題があることを説明している。
- ◇ 1. において、利用研究課題には一般課題と重点戦略課題があることを説明しているからこそ、「一般課題についてはこのように公募する」「重点戦略課題についてはこのように公募する」という記述にするのが自然なのではないか。
- ◇ 「基本的考え方」の中に一般課題の定義がないのでわかりにくい。  
この書き方では「利用研究課題」と「重点戦略課題」が同列の記載になっていると誤解されるのではないか。2重の言及になっても「利用研究課題の一つである一般課題とは何か」ということを繰り返し記載すべきと考える。
- ◇ SACLAの場合、重点戦略課題以外が一般課題。利用研究課題の課題種は2つのみ。そのように整理すればいい。
- ◇ SACLAはまだ供用を開始していない未分化な状態であることから、SPring-8のような多様な利用制度を現段階で検討するのは難しい。
- ◆ 全体として整理して、修正版は委員へメールでご確認いただく。
- ◆ SPring-8の方も並びが適切ではないことは認識している。今後、別途修正を検討する。

② 利用研究課題の募集要項（概要）について

JASRIより申請様式の素案を含む説明の後、以下の主な意見があった。

- ◇ 現状の申請様式案のみでは、課題申請者がSACLAで実験するために検出器等の解析装置など、何をどれだけ用意すればいいのかわからない。申請者が用意すべきものを明確にするために、SACLA側にあるものを明示する必要がある。

- ◆SACLA の施設・設備に関する技術情報は Web ページ公開準備を進めている。
- ◇実験方法の記載内容・量が少ないと思う。
- ◆この素案は申請に必要な記載項目を示すもの。記述分量を正確に示しているものではない。
- ◇量はともかく、このくらいの情報が申請に必要であるということか。
- ◇申請の締め切りはいつ頃か。
- ◆12 月中を予定。
- ◆Web で公開する施設・設備に関する情報については、公募開始以降も段階的にリバイスすることになる。
- ◇重点戦略課題はどのように申請するのか。何故重点戦略課題で申請するのかという項目が別にあっても良いと思う。
- ◇同じランクの場合は重点戦略課題は一般課題よりも優先されるため、その決め手になるような、重点戦略課題にふさわしいことを示す項目があれば良い。
- ◇重点戦略課題については、指定されたテーマに沿った課題である旨を説明するような項目を設けるということか。
- ◇「実験課題」は「研究課題」の方が良い。
- ◇安全に関する項目はもっと後にし、課題の目的や方法等の記載項目は、課題を審査する者にとっても先にある方が良いと思う。
- ◇課題審査基準に学術的貢献や産業利用の推進に貢献等々があるが、これらについての説明はどの項目に書くのか。
- ◆「研究の提案理由」のところに書くことになる。
- ◇「安全に関する手続きが必要なもの」の記述はこれで十分か。これ以外は手続きが不要とならないか。例えば「その他健康を害する可能性のある物質」等々の幅広い項目が必要なのではないか。
- ◇同じところであるが、「手続きが必要である」という書き方で良いのか。課題申請時は手続きはまだ要らないということなのか。
- ◆SPring-8 の場合、申請があってから SPring-8 で手続きをしなければいけないものをサーベイするためのチェック項目となっている。
- ◇SACLA 利用研究課題審査委員会に外国人は入るのか。
- ◆今のところ、特段考えてはいない。なお、申請書は英語で出てきても

審査は十分可能である。

◇2012B 以降の課題公募の際は、2012A の様子を見ながら課題公募の内容等を適宜変えていくことになる予定。

◆SACLA のレーザー光で試料が壊れて飛び散ることも考えられ、経験を積むことが重要。例えば人体に危険を伴うと考えられるような実験については、当初はかなり慎重な検討が必要。

◇スタンフォード大学の LCLS では、安全性の問題に関する話は特段ないようである。

◇提案課題は、安全性を担保しつつも門戸を狭めるようなことがないようにはしていただきたい。

◆安全については、もう一度内容を見直す方向で施設側の安全管理セクションと検討。

◇重点戦略課題について、何故これが重点戦略課題であるかの説明項目を追加する必要がある。

◇ただ、研究タイトルが重点戦略課題として示されたテーマそのものであれば、それ以上書きようがないのではないか。

◆その研究目的などで明白にしてもらえばいいと考える。

◆申請者がどうして重点戦略課題であると考えたかを明示すれば良い。

◆13. の項目で、重点戦略課題とする理由（何故そう考えるか等）を記載いただくようにする。また、素案では、重点戦略課題についてのみ記載項目を設けている「今後の展開・方向性等」については、提案理由の中に一般課題・重点戦略課題の両方共通記載内容として提案理由のところに記載いただく。

◇審査に必要な事項はきっちりと書いていただく必要がある。

◆施設側としては、実験方法を詳しく書いてほしい。

◆例えば、SACLA ではフェムト秒レーザーを用いたポンプ&プローブが多用されると考えられ、そのレーザーの具体的な仕様条件も必要になる。

◆本日の委員会でのご意見を踏まえた申請様式の案を改めて詰めて、メールで委員に見ていただくことにしたい。

◇SACLA 利用研究課題審査委員会に JASRI スタッフは入るのか。現場

の方でないとわからないこともある。

◇JASRI スタッフも入って審査に加わることになる。

◆選定委員会は登録機関がご意見を聞くための委員会であり、JASRI スタッフは入りえないが、審査委員会には入る予定である。

◇現場レベルでは、12月～供用開始までの間でもどのような状態で実験ができるか等の条件が変わりえる。課題が選定されれば、具体的な現場との摺り合わせが重要。

(3) その他 今後のスケジュールについて

JASRI より今後のスケジュールについて説明。

◇次回は、課題審査が終わった段階の1月末頃に開催予定。

◇第1回の議事概要については、今後1週間以内にメール等でコメントがなければ確定版とする。

以 上